

## 令和4年度若手研究員農家等実地研修

水利工学研究領域 流域管理グループ 福元雄也

農研機構では若手研究者の社会に役立つ研究開発・技術開発を行う意識を高めることを目的として若手研究者を農業経営体等へ派遣し、農作業等の業務経験や経営者との対話を行う機会を設ける農家等実地研修を実施しています。

私は鹿児島県志布志市を中心に露地でケール、ハウスでピーマン、きゅうり、なすの生産、及び里山牛というブランド牛の放牧飼育を行っている株式会社さかうえ様に研修を受け入れていただき、11月7日から11日までの5日間、職業体験を行わせていただきました。

私が体験させていただいた作業は主にきゅうりの収穫と蔦下ろし、及びケールの収穫と枝打ちでした。

きゅうりの作業はハウス内ということもあり、気温も湿度も高い中、収穫であれば、出荷に適したサイズを見極めて傷つけないようにハサミで切り取り、蔦下ろしであれば、葉や蔦をちぎってしまわないように適切な位置で固定するなど、肉体的な負担に加え、想像していた以上に集中力を必要とする作業であり、作業工程の多い野菜栽培の複雑さを体感できました。



ハウス栽培のきゅうり

ケールの作業は頻繁にしゃがんだりかがんだりする上に、収穫したケールのケースは手作業で軽トラに積み込むなど全身に負荷のかかる過酷な作業でした。また、無農薬で栽培されているため雑草も少なく、それらも人の手で取り除く必要があります。消費者の方が安心して口にできる食品を提供したいという気持ちを感じられるとともに、有機栽培ならではの大変さも感じることができました。



露地栽培のケール

上記の作業以外にも牛舎や畑地灌漑設備などの施設の見学や工程管理業務の説明、出荷作業の体験等も実施いただきました。また、各作業現場では担当者の方から作業内容のご指導はもちろん、現場での工夫や課題などのお話を伺うことができ、さらに、一日の終わりには経営者の方とその日を振り返っての感想をお伝えし、疑問に対して回答いただく時間も設けていただきました。こうしたお話から農作業に関する情報の整理・伝達や役割分担などによる効率化、畑かん設備の活用や圃場管理のDX化などによる省力化の取り組み、さらには業務状況や地域との関わり、市場などを総合的に考慮して行われる経営の考え方についても理解を深めることができた大変有意義な一週間でした。

今回の研修を通じて、実際の生産現場ではまだまだ人の手による作業も多く、省力化のための研究や技術開発が求められている一方で、そうした技術の普及には経営体や圃場ごとに異なる作業環境に適用可能な汎用性や既存の手法や技術以上の費用対効果が必要であることを理解しました。こうした視点を踏まえて今後の研究活動に励んでまいります。

最後になりましたが、研修を受け入れていただき、また本研修が実り多いものとなるようお心づくしいいただきました株式会社さかうえ様に厚くお礼申し上げます。